

令和5年度 第1回 足立区ひきこもり支援協議会

ひきこもり支援に関する諸説明

足立区 福祉部 足立福祉事務所
くらしとしごとの相談センター

目 次

- 1 ひきこもりを取り巻く現状と課題
- 2 足立区の実取り組み 現状と課題
- 3 足立区版ひきこもり支援の本格始動
 - 3－1 足立区版ひきこもり支援の方向性
 - 3－2 短期目標（ステージ1）支援の基盤を創る
ひきこもり支援に関する区の基本的な考え方
支援メニューの拡充の進め方
 - 3－3 中期目標（ステージ2）有機的な連携を創る

★今回テーマ

★今回テーマ

1 ひきこもりを取り巻く現状と課題

ひきこもりの定義

ひきこもりの定義（厚生労働省引用）

さまざまな要因により、社会的参加を避け、原則として6か月以上にわたって、概ね家庭にとどまり続けている状態

ポイント① : 明確な定義というわけではない

ポイント② : “状態”なので、問題行動や疾患を意味しているわけではない

ひきこもりの状況(全国ベース)

国の調査では、15歳～64歳でひきこもり状態にある人は全国で推計**146万人**

令和4年度 こども・若者の意識と生活に関する調査に基づき作成

中高年(40歳～64歳)
ひきこもり推計人数比較

2019調査
61.3万人
(出現率1.45%)

2022調査

84万人
(出現率2.02%)

若年者(15歳～39歳)
ひきこもり推計人数比較

2015調査
54.1万人
(出現率1.57%)

2022調査

62万人
(出現率2.05%)

合計**146万人**

ひきこもりに関する、よくある状況や傾向

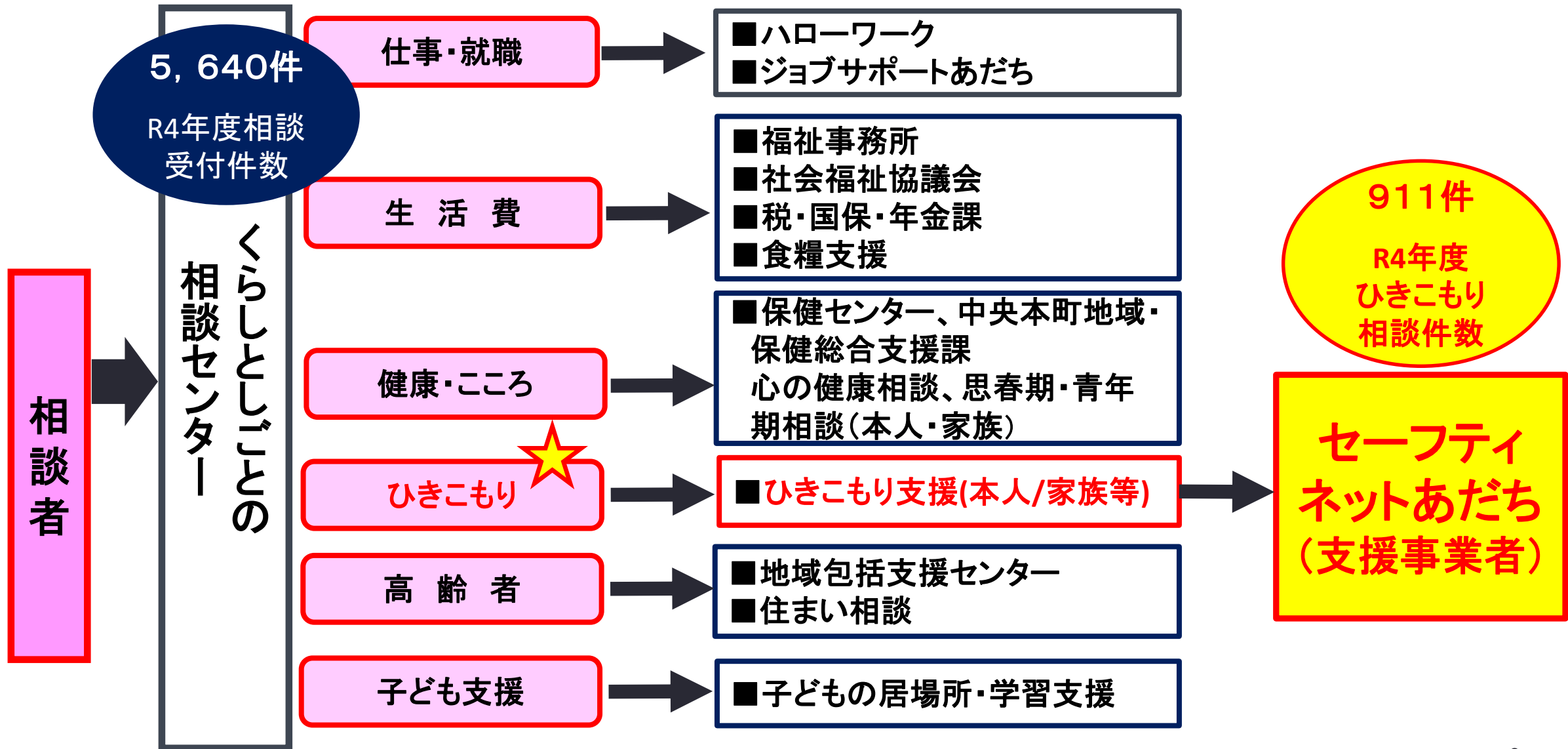
- ① 当事者の年齢があらゆる世代に渡っている
- ② ひきこもりの状態のきっかけはさまざま
- ③ ひきこもりの状態が長期間にわたる
- ④ 関係機関からは(困り事が)見えにくい

※当事者や家族の意識:わるい/隠したい/自己責任である

- ⑤ 課題が発生、経過してから周囲が気付くことが多い
- ⑥ 最初の相談者は家族であることが多い
- ⑦ 複合的な問題が混在している
- ⑧ 当事者とともにその家族も悩みを抱えていることが多い

2 足立区の実施 現状と課題

支援の大まかな流れ



足立区のひきこもり支援 これまでの経緯

年度	主な動き
H30	福祉部へひきこもり支援の担当所管変更(産業経済部より移管) ・ 支援は委託事業者(セーフティネットあだち:拠点は千住)が実施。 ・ 支援対象は、本人とその家族等。 ・ ご本人に配慮して、支援窓口名称に“ひきこもり”を入れず。
H31	ひきこもり支援の対象年齢を撤廃(15～40歳→制限なしへ拡大)
R1	ひきこもり実態調査(生活状況に関する調査)を実施 ・ 足立区のひきこもり者数の全体把握のため。 ・ ひきこもり=6,430人の推計値(足立区15～64歳の人口の1.56%)
R2	ひきこもり支援者向けの居場所設置 ・ 現セーフティネットあだちの事務所内に設置。
R5	本格始動に向けた各取組み実施 ・ R5. 4月 三者の会を初開催 現状の支援の課題等を洗出し

くらしとしごとの相談センターの目的・役割

1 一人ひとりの相談をお聴きします

くらしやしごとをはじめ、様々な理由で困っている方々（生活困窮者）の
相談をお受けします

2 お悩みに寄り添います

相談者の悩みを整理し、解決を一緒に考える、寄り添い型の支援です

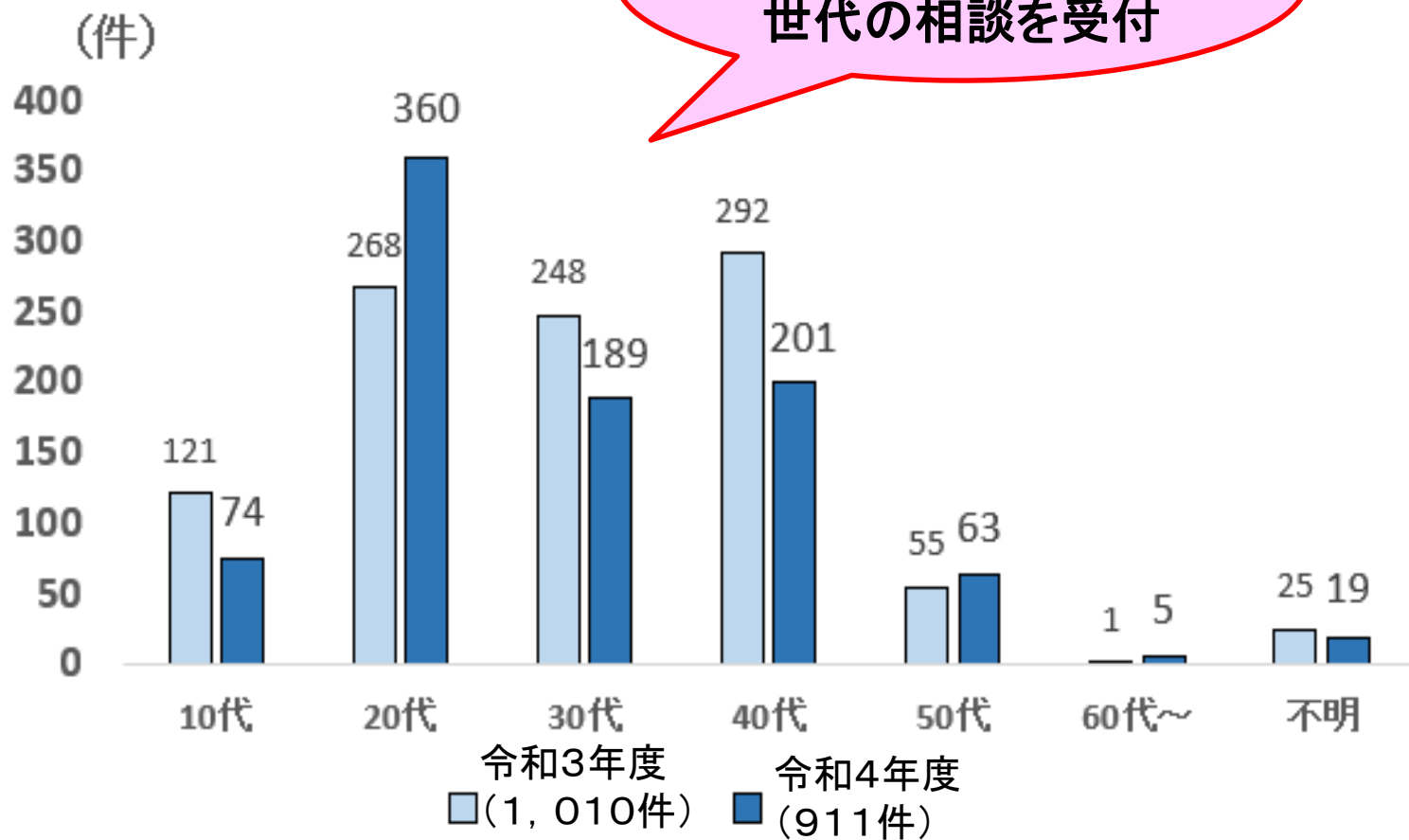
3 自立に向けて一緒に進みます

最後のセーフティネットである生活保護制度に至る前の段階で、相談者の自立まで継続的に支援します

R4年度 ひきこもり支援相談件数(年代別・性別) 実績

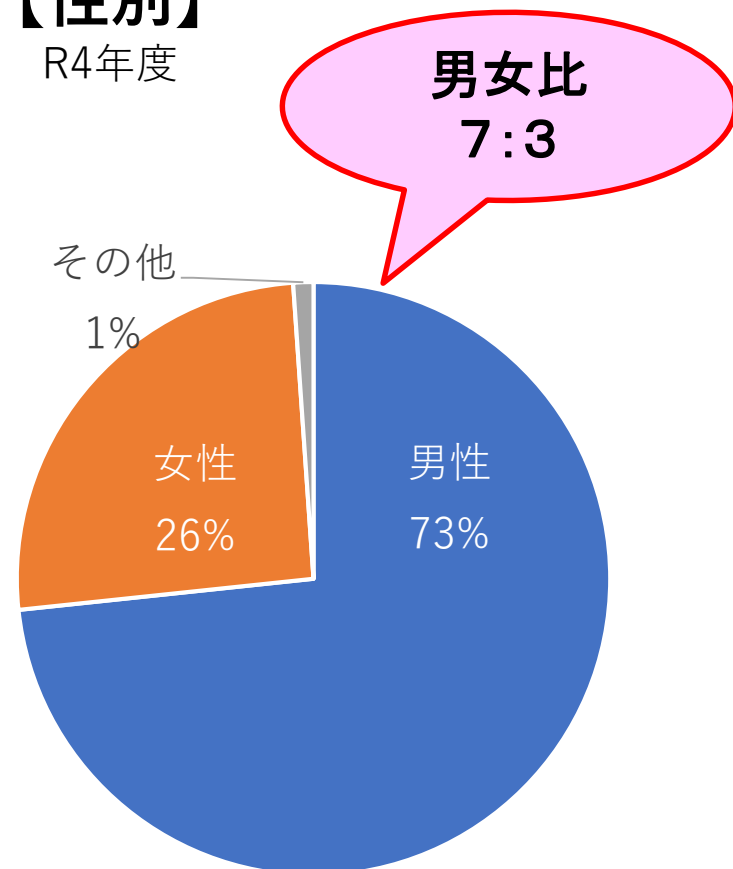
【年代別】

R3・4年度



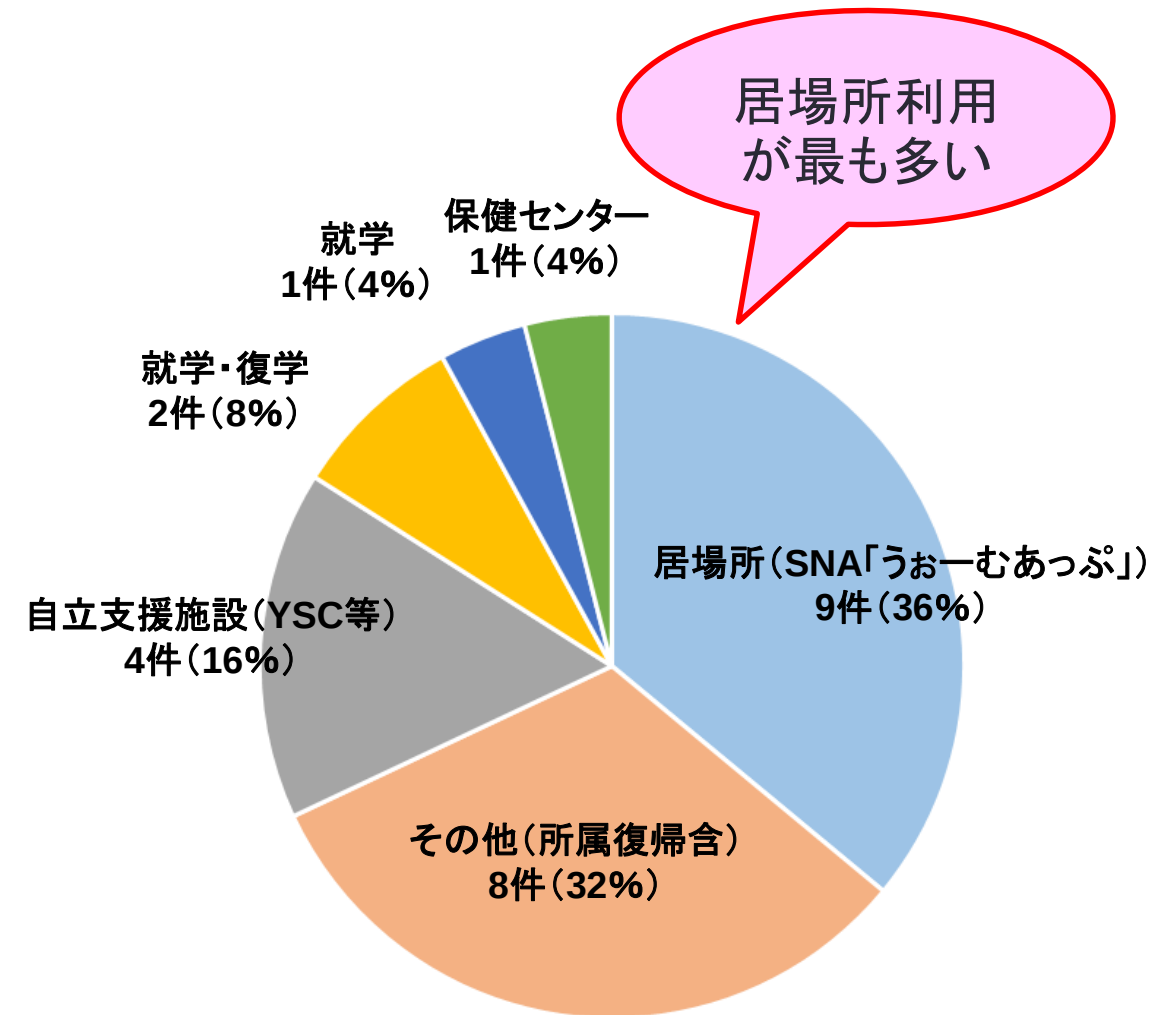
【性別】

R4年度



R4年度 セーフティネット事業 関係機関へつないだ(リファア)実績

リファア数(年代別)	10代	20代	30代	40代	50代	合計	%
くらしとしごとの相談センター						0	0.0%
就学		1				1	4.0%
就学・復学	2					2	8.0%
保健センター					1	1	4.0%
こども支援センターげんき						0	0.0%
就労支援施設 (サポステ等)						0	0.0%
居場所 (SNA「うおーむあっぷ」)		7		1	1	9	36.0%
フリースペース (SNA居場所以外)						0	0.0%
あしすと・ふれんどりい						0	0.0%
自立支援施設(YSC等)		2	1	1		4	16.0%
その他(所属復帰含)	1	3	1	3		8	32.0%
R4年度計	3	13	2	5	2	25	100.0%
%	12.0%	52.0%	8.0%	20.0%	8.0%	100.0%	



ひきこもり支援 現状の課題

	主な課題	対 応
1	支援の中核となる 団体間の関係強化	(1)お互いの顔が見える関係づくりを行う。 (2)三者の会は、現場の日常的な交流の場として定期継続する。
★2	庁内外の関係者による意見交換の場の必要性	(1)学識経験者を含めた庁内外の関係者によるひきこもり支援の拠点の場を新設する。 (2)情報共有のほか、区の方方向性や取組み等を意見交換できる場とする。
★3	支援の基本的な考え方の整理	(1)区の基本的な考え方を決めていく。 (2)本人やその家族、関係者の意見を反映する。
★4	具体的な取組みメニューの拡充	(1)取組みメニューの拡充を検討、実施していく。 (2)本人やその家族、関係者の意見を反映する。

3 足立区版ひきこもり支援の本格始動

3-1 足立区版ひきこもり支援の方向性

3つの**創る**で
支援のステージを**築く**

支援の基盤を 創る

- 1-1 区の基本的人考え方策定
- 1-2 支援メニューの拡充

ステージ 1
(短期)

有機的な連携を 創る

- 2-1 関係機関との連携・つながりの強化
- 2-2 年代等に細分化した支援
→類似支援とのコラボ型
支援

ステージ 2
(中期)

地域全体での支援を 創る

- 3-1 地域全体で支援する仕組み構築、定着
- 3-2 誰ひとり取り残さない地域を支える基盤の定着

ステージ 3
(長期)

3-2 短期目標(ステージ1) 支援の基盤を創る

1 目的

- 1-1 本格的な支援における拠点の場の創設
- 1-2 関連分野の有識者等による課題検討や情報共有の場
- 1-3 支援の今後の方向性や取組み等を検討する場

2 目指すところ

- 2-1 **推進力**かつ**機動力**を備えた会議体制の実現
⇒ **二層式**の会議体(代表者会議と支援検討会議)

3-2 短期目標(ステージ1) 支援の基盤を創る

足立区ひきこもり支援協議会(代表者会議)

- ★ 支援の方針・考え方を意見交換する場
- ★ あらゆる世代、多分野による連携を創る
- ★ 委員は三役・学識・支援団体・部長級で構成

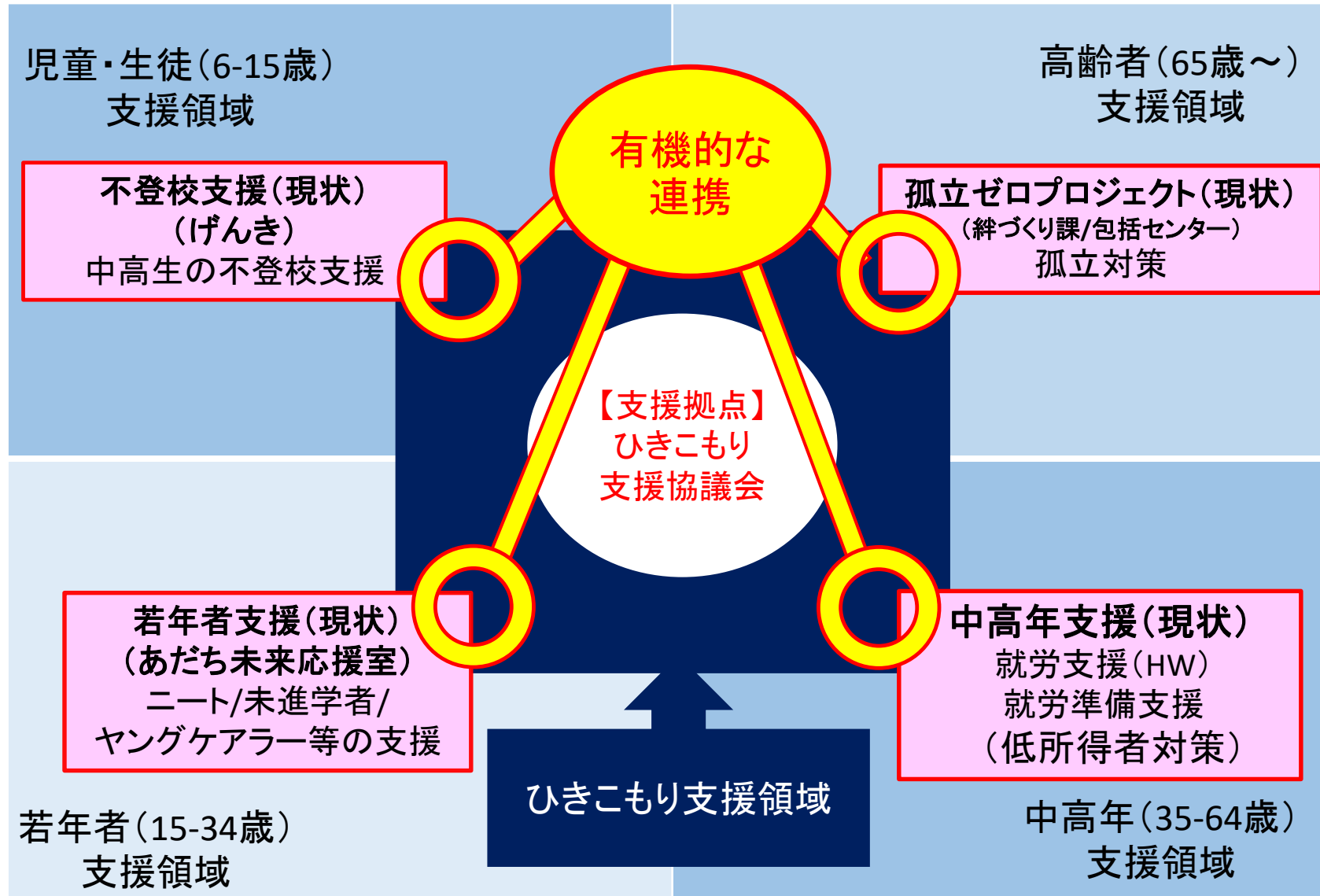
支援検討会議 ※部会

- ★ 支援の具体的なメニューを検討、決定する場
- ★ 委員は課長級・外部団体/有識者で構成

推進力

機動力

3-3 中期目標(ステージ2) 有機的な連携を創る



重点ポイント

形式的な連携にとどまらない、
有机的な・強い連携
による支援体制を構築すること

連携による支援体制

- ① すべての世代に対応した支援体制
- ② 既にある類似の支援ネットワークとのコラボによる支援体制
- ③ ひきこもりに関する情報を一元管理し、共有する支援体制

ご清聴ありがとうございました

